



保護者の皆様へ

本年度実施された全国学力・学習状況調査(6年生対象)及び、埼玉県学力・学習状況調査(456年生対象)における広沢小の子どもたちの概要をお知らせします。子ども一人一人の成長のために、生活習慣や学習習慣をよりよいものにする家庭実践項目の取り組みを進めていただければ幸いです。

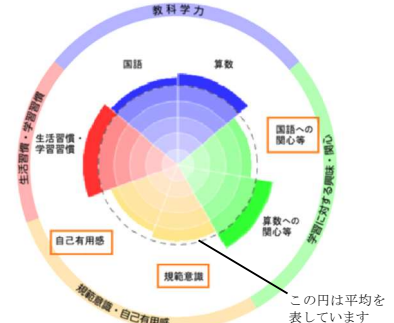
なお、本調査により測定できるのは、学力の一部であること、学校における教育活動の一側面に過ぎないことをご理解ください。また、調査結果が序列化や過度な競争につながらないように十分配慮ください。本資料もそのあたりを十分踏まえた内容となっています。

教科の平均正答率・児童生徒に対する調査の結果から見える広沢小の課題

今年度の学習状況に関わる調査の結果は、学年や教科ごとに異なりますが概ね県・全国の平均値を上回るものとなりました。平均値は学年が上がるごとに、高くなっていることが広沢小の傾向です。

一方で、学力の苦手傾向が明確になってきました。それは、「相手に伝えるための説明力」と「よく考えて、正しいかどうかを考える批判的思考力」です。国語では「文章を作成したり、読解力を高めたり、相手に伝えたりするための能力」、算数では「情報を捉え問題解決に生かす力、情報の色々な側面を把握し、それを批判的に考察する力」で県の平均を下回る結果となりました。

また、**自己有用感**と**規範意識***の面で課題が見られました。



*規範意識とは、集団生活や社会生活におけるきまりやルール、約束などの規範に基づいて、主体的に判断し行動しようとする意識のことです。

◆学習課題に関する学校での取り組み

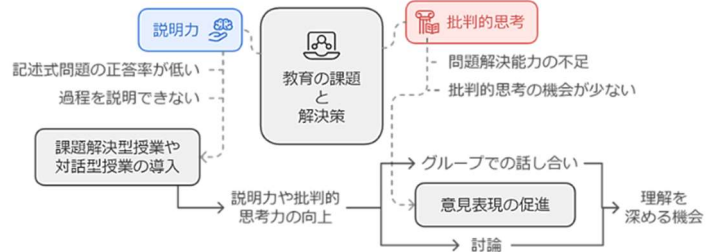
長期の視点では、学習は「望ましい困難」があった方がよい!?

習ったばかりのことを練習する速い学び(解法を用いる問題など)

他にも使えるかなどより大きな概念につなげるゆっくりとした学び(関係を認識する問題など)速く学ぶか? ゆっくり学ぶか? どちらがよいとおもわれますか。

速く学ぶことの利点は、短期的に成績が高まることです。一方、ゆっくり学ぶことは、短期的には学習を難しく、より苛立たしく、時間のかかるものになりますが、長期的にはより高い効果をもたらす長期的進歩が望めます。

学習効果を高める手法の一つに「生成効果」という言葉があります。自分一人で答えを出そうとすると(生成しよう)とすることは、たとえ出した答えが間違っていたとしても、その後の学びは強化されるようです。



国語

国語の能力を向上させるためにどの課題に取り組むべきか?

- 読解力の向上**: 文章の内容や意図を正確に理解する力を養う。
- 表現力の向上**: 自分の考えや感想を適切に文章にまとめる力を高める。
- 構成力の向上**: 文章の構成や表現方法について考える力を育てる。
- 読書習慣の改善**: 読書量や読書習慣を増やす。

算数

算数の課題を克服するためにどのスキルを向上させるべきか?

- 基礎的な計算や図形の知識と技能**: これらの基礎スキルが不足していると、複雑な問題に取り組むことが難しい。
- 問題解決のための思考力や表現力**: 問題解決に必要な思考力や表現力が不足していると、解答が不十分になる。
- 複数の手順や条件が必要な問題に対する解答**: 複雑な問題に対する解答ができないと、算数の成績が伸び悩む。
- 解答過程や理由を説明する能力**: 解答過程や理由を説明できないと、理解度が低いとみなされる。

◆自己有用感*と学力向上

*自己有用感(自己肯定感とも言う)とは「自分の属する集団(クラスや友達、家族など)の中で、自分がどれだけ大切な存在であるかということと自分自身で認識すること」です。

「児童生徒質問紙」と「学力」の相関関係を分析すると、「自己有用感」の高い子どもが、国語や算数の平均正答率が高く、楽しく学校生活を送っているという傾向にありました。

自己有用感 UP!

- 存在感: 「他者や集団の中で、自分の存在価値を実感できること」
- 貢献: 「他者や集団に対して、自分が役に立つ行動をしているという成就感」
- 承認: 「他者や集団から、自分が誰かに必要とされているという満足感」



学力も UP!

自己有用感の高い子供の特徴	自己有用感の低い子供の特徴
<ul style="list-style-type: none"> 自分に自信がある 何事にも挑戦していくことができる 自分の意見をはっきりと言える 自分自身を大切にできる 心に余裕があり、他人に優しく接することができる 	<ul style="list-style-type: none"> 自信がなく、劣等感が強い 常に人の顔色を気にしている 自分の意見をはっきりと言えない 失敗することが当たり前だと感じている 他人との関わり合いが苦手である

学校で自己有用感を育てていくために	家庭で自己有用感を育てていくために有効なこと
心の安定: 良い面を見つけ集団の中で活躍させます。 成就感: 自分の力で最後までやり遂げさせることで、成就感と自信を獲得させます。 評価の工夫: 失敗体験もチャンスと捉えます。結果も大事ですが、努力を認め、ほめ励まします。	1 スキンシップを通して温かさを伝えること 2 親子で一緒に過ごす体験 3 勇気づける、認める声かけ ※自己有用感につながる言葉 例: 「ありがとう」「OOのおかげだよ」「頼りになるなあ」

過去に学習や学校生活に関して否定的な自己概念を抱いている子どもは、その自己概念のために前に進めなくなっています。「好きこそ物の上手なれ」ということわざがあります。難しいことであっても、好きなものに対しては熱心に努力することができ、上達も早くなります。

ほめる、励ます、認めるなど肯定的な評価を積極的に行い、自己有用感を体験的に積み重ねていけるよう配慮し、工夫していくことで、自分に自信をもって熱心に意欲的に取り組める児童を育てていければと思います。